



開高健『人とこの世界』

んで勝手に「にしゆき」って覚え込んだというんだね。テレビでも「にしゆきさん、にしゆきさん」って言ってるのを見たことがあった(笑)。

加古 へかの秋のラブミー牧場、若かりし深沢さんと食いにし卵〜という歌もあります。

幸綱 まだ発売されたばかりの電子レンジがなぜか深沢さん宅にあった。電子レンジを僕も見ることがなかった。深沢さん宅ではじめて見たと思う。来たばかりだったら

しく、いろいろ実験していた。生卵を入れたら……爆発した(笑)。

加古 お土産に葱をもらわれたとか。

幸綱 そう。深谷葱の産地で、深沢さんも作っていたんだね。

▽本当の「おじいさん」 横山大観

幸綱 たまたま一月号の雑誌「歌壇」に「スクラム」三十首を出したんだけど、中の子どものころ横山大観を見た体験を十首にして発表しました。

文京区西片町の旧信綱宅に戦後十年近く住んだのかなあ。前にも話しましたが、信綱が熱海に引越して、信綱の本郷の家が空いたんですね。信綱の息子や娘の家族が何組かそこに住んだ。焼け出されたり、東京に住まなければならなかったり、いろいろな事情があったわけです。わりと大きな家だったから、そこに五、六家族が一緒に住んだ時期があったんです。

僕が小学校一年から中学の始めくらいまで、そこに住んだのかなあ。その家の三、四軒先に、横山さん宅があった。そこに大観の孫にあたる兄弟がいたと思うんだ。今は長男の方が不忍池のほとりにある横山大観記念館の館長をやっておられるということです。彼は俺よりも年上でした。そんな横山家の子もふくめて一緒に野球をやっ

てたんだね。東大まで近かったのだから、グラウンドだった。野球が終わると、横山くん家に行つて井戸水で汚れた手や足を洗つたりする。

戦後の菓子がない時期だったんだけど、横山くん家に行くと菓子があつた。お菓子を食べていると、横山くんが「うちのじいさん、見るか?」とか、聞くんだよね(笑)。みんなで「見る、見る」って(笑)。

その画室は、二十畳か三十畳くらいで、板敷になつていて。大きな紙が敷いてあつて、そこに橋が渡してあるんだ。たぶん、その上で描くんだろう。そういうふうな設定だったと思う。そこに横山大観がいるんだ。いつも、じーっとしていてさ。着物を着て座っていたと思う。

何回か見たけど、酒瓶が置いてあつたこともあつたような気がする。どこから見ると、座敷の下部に掃き出し窓があつた。箒で掃き寄せたゴミを出す小さな窓だ。そこを開けて子どもたちが顔を並べてね。偉い画家ということとはみんな知っている。当時もう相当に有名人でしたからね。**黒岩** 実際に絵を描かれている姿を見たことはありますか。

幸綱 描いている現場は見えていないと思う。子供が見ているのに気づいているはずだからね。